

なるほど！電池の働き

盛岡の電気自動車の模型作り



磁石を使った工作に見入る杜陵小の児童

盛岡市肴町の杜陵小（熊谷幸一校長、児童三百八人）で五日、「エネルギー出前授業」が開かれた。児童が電池について学び、エネルギーへの理解を深めた。

四年生三十六人が参加した。岩手大工学部高木浩一准教授と同大の学生六人がソーラーカーや磁石を使った工作などを紹介し、電池の種類やエネルギーについての授業を行った。

児童は電気の作り方や

ため方などを学び、カーボードやストロー、コンデンサーなどを使った電気自動車（コンデンサーカー）の模型作りに取り組んだ。

高橋匠君は「身の回りの見たことがあるもので車を作ることができた。とても面白かった」と満足そうに話した。

指導した高木准教授は「多くの体験をして、環境のありがたさやエネルギーについて関心を持ってほしい」と期待す

る。杜陵小は本年度から経済産業省のエネルギー教育実践校に指定。本県では水沢小、黒沢尻工高の二校も指定されている。



市町村きよしの日程

- ▽谷藤盛岡市長 市政ラジオ番組収録
- ▽中屋敷肇石町長 県治山林道協会役員会（盛岡）、町総合計画審議会
- ▽柳村滝沢村長 休暇
- ▽藤原紫波町長 庁内用務
- ▽川村矢巾町長 認定農業者証交付式、議案打ち合わせ、行政区長協議会忘年会

温暖化防止願い 町に募金を寄付

紫波のナックス

紫波町桜町の盛岡南ショッピングセンター・ナックス（田森悠太郎理事長）は五日、町の環境保全活動に寄付金五万二千円を贈った。

田森理事長、菅原一副理事長、星川憲康ナックスホール総支配人が町役場を訪問。田森理事長は「わずかだが活用してほしい。環境を守る活動の広がり期待している」として、藤原孝町長に寄付金を手渡した。

ナックスは十一月二十三日から三日間の大創業祭で「民謡・民舞の祭典」を開催。地球温暖化防止を願い、今回は初めて来場者に環境募金を呼び掛けた。町は基金を積み

に浮かび上がるクリスマスツリー